

# 関更女たより 第42号



## 東京湾アクアライン

東京湾の中央部を横断する全長15.1kmの自動車専用の有料道路で、千葉県木更津と対岸の神奈川県川崎を約15分で結びます。木更津から4.4kmが橋梁、川崎から約9.5kmがトンネルとなっており、橋梁とトンネルの接続部に海ほたるが、トンネル中央部に風の塔があります。遠く富嶽を西にして、南房総への玄関口として多くの方に利用されています。東京湾アクアラインが結ぶ木更津には豊かな自然と多彩な観光地があり、潮干狩りなども楽しめます。



## 地域に寄り添って

関東地方更生保護女性連盟

会長 井坂 たけ

平成最後の年を迎えました。平成とはどんな時代だったかを振り返り、これからの時代をどうありたいかを考えてみる事も大事なことに思います。

平成が始まった1989年はバブル経済の絶頂でした。世界に目を向けると天安門事件、ベルリンの壁の崩壊の起きた年です。やがてバブルが崩壊し、1995年に阪神淡路大震災とオウム真理教の地下鉄サリン事件が起きて『日本はどうなるのだろう』と誰もが不安でした。

その後も東日本大震災をはじめ幾多の自然災害に見舞われ、これまでボランティア意識の低かった日本人の心が揺さぶられ、人々はボランティアに目ざめ、価値観も変わりました。

災害の多かった平成、天皇・皇后両陛下におかれましては災害の起きる度に被災地に足を運ばれ、国民に寄り添うように膝をついて被災者に声をかけられる姿に感動しています。この30年間、戦争のない平和の時を過ごせたことは、何よりも感謝です。

一方この30年間、私たちの歩みはどんなだったのでしょうか。「非行防止には子育てが大事」なことから、ミニ集会、子育て支援活動が全盛を迎え、地域との連携協働活動へと発展しています。

平成16年から17年にかけて(元)保護観察対象者による重大再犯事件によって、これまでの更生保護制度を見直す必要に迫られ、安全・安心の国づくり、地域づくりを目指して、平成19年6月に更生保護法が成立、更生保護改革が急ピッチに進みました。更生活動を考える有識者の会の提言は「地域の中に更生保護の心を広める」でした。私たちの活動も変わらなければならないと思い活動の原点に戻り、地域の中で「ほっとけない運動」をすすめることでした。

「たむろしている少年たちをほっとけない」と大型ショッピングセンター周辺を少年たちに寄り添って、保護司会と更生女会が協働し計画的に声かけパトロールをした結果、徐々に少年たちの姿が消え犯罪も減少し効果的であったことを実感しています。

少子高齢化と人口減少、人生100年時代、国は外国人労働者の受け入れ拡大を考えています。

不登校の小中学生は14万人。いじめの認知数41万4千件。虐待件数13万件。子どもの貧困等々。ほっとけない問題が山積しています。

再犯防止推進法が施行され、国と地方行政、住民が協力し合って取組みを進めています。難しい課題も多い中、地域での更生女活動に対する期待も大きいと聞いています。

これからの更生女は問題意識をもって地域のニーズを汲み取り、行動できる自立した更生女でありたいものです。

地域を編み、これからは更に地域との連携をすすめる、地域に寄り添い、地域の中で「見える活動、わかる活動」が推められたらと思っています。



# 平成30年度 協議員会

**と き** 平成30年5月17日(木)  
**と ころ** 関東地方更生保護委員会  
第一研修会議室  
**出席者** 協議員23名 監事・事務局員  
関東地方更生保護委員会 3名  
(関東地方更生保護女性連盟規約第6条・第7条により開催)

平成29年度事業報告、一般会計収支報告、監査報告、平成30年度事業計画案、一般会計予算案等について協議をおこなった。

協議委員会終了後、関東地方更生保護委員会委員長吉田研一郎様の「最近の犯罪・非行情勢と更生保護」と題する講演を拝聴した。

今年度会員研修は、埼玉県長瀬にて開催することを確認した。

## 最近の犯罪・非行情勢と更生保護

関東地方更生保護委員会 吉田 研一郎委員長の講話より



吉田委員長は、各種の重要なデータを基に、犯罪や非行の情勢について話して下さった。

### 1 刑法犯について

圧倒的に多いのは窃盗で、平成28年 72万件強、続いて交通違反48万件。

#### ○ 検挙率は

昭和後半の60%以上に比べ、平成に入ってから年々減少。しかし20年頃から再び上昇気味。

#### ○ 減少してきた理由として考えられるのは

- ・ 車や鍵の構造が向上したこと
- ・ 若年層の減少
- ・ 関係者の努力

#### ○ 一方減少していないのは

- ・ DV・児童虐待・薬物・特殊詐欺などである。

### 2 少年による刑法犯の検挙人員を見ると

平成15年 約900人 28年 200人弱  
人口比 平成15年 1200人強 28年 347人  
平成15年をピークに、年々減少を続けており、人口比に於ても減少している。

#### ○ 減少の理由を考えると

- ・ 非行として現われなくなっている。
- ・ 今の生活に満足している子が増えている。
- ・ 子供の貧困率が向上している。

この対策として、子ども食堂の増加、放課後の居場所づくり、学校を利用した朝食の提供など、いろいろな活動が展開されている。

### 3 少年院の入院者を年齢層別に見ると

#### ○ 平成13・14年の頃から減少を続けている

平成28年度	年少少年 (14~15才)	377人
	中間少年 (16~17才)	967人
	年長少年 (18~19才)	1219人
10万人当たり	年少少年は	16.2人
	中間少年は	40.2人
	年長少年は	49.5人

### 4 女性の入所受刑者を見ると

#### ○ 平成9年から増加中

平成9年約1300人に対し、平成28年は2005人

#### ○ 内容としては、覚醒剤や窃盗

○ 特に高齢者の犯罪は女性に多く、6度以上の再犯者も多数。

### 5 少年院出院時の引受人の現状は

○ 少年の引受環境は劣悪で、男子では24%、女子では18%の引受先がない。

### 6 成人受刑者では

○ 仮釈放者は31.8%、満期釈放者は49.1%の帰宅先がなく、1/4は3か月未満に再犯者となる。  
再犯者率は、平成28年度 48.7%

最後に先生は、再犯防止推進計画を示され、各県の効果ある活動を期待して、話しを結ばれた。

(文責 栗田 治江)



## 平成30年度 関東地方更生保護女性連盟会員研修

平成30年9月18日(火)～9月19日(水)と長生館(秩父郡長瀬町)に於いて、会員50余名の参加を得て関東地方更生保護女性連盟会員研修を開催致しました。

**1日目** 開会式では、吉田研一郎関東地方更生保護委員会委員長、遠藤隆雄埼玉県保護司会連合会会長からご挨拶を頂きました。

午後から押切久遠さいたま保護観察所長の「物語にみる更生保護」と題して講話を伺いました。

続いて意見交換は会員1グループ6人で10グループに分かれ、研修テーマ①地域との連携・協働

活動を進めるために(ピンクのメモ)②再犯防止等における更女の役割について(ブルーのメモ)を模造紙に貼り、常任委員のリードで参加者全員が主役での雰囲気の中で進められました。

**2日目** 全体会では前日討議された意見の中から3点選び、各グループの代表が発表致しました。

最後に佐藤好行関東地方更生保護委員会更生保護管理官から指導講評を頂き、閉会となりました。

新しい形式の研修会で得られたものを今後の活動に活かしていけると思いながら、おもてなしに感謝し会場を後にしました。



### 物語にみる更生保護

さいたま保護観察所長

押切 久遠

本日は、私が、更生保護に関して描かれていると思う幾つかの物語を取り上げ、少し論じてみたいと思います。

#### 1 吉村昭『破獄』(新潮文庫)

この小説は、「昭和の脱獄王」と呼ばれた実在の無期刑囚をモデルにしたものです。主人公の男は、昭和11年から戦後の昭和22年にかけて、刑務所から実に4度も脱獄を繰り返しました。その脱獄方法は超人的なもので、手桶の金属製のたがを粘り強く摩擦して合鍵を作ったり、独房の3メートル以上の壁をヤモリのようによじ登って天窓から脱出したり、味噌汁を少しずつ垂らして金属を腐蝕させ、手錠を開錠し、視察窓の鉄棒を外してそこから裸体で脱け出したり、便器にはめられた金属を鋸に加工して床板を切り、その下の土を食器でかき進んで外に出たりしたのです。また、彼は自分に厳しく接する看守に報復するため、その看守の当直の夜を狙って逃走を企てたと言います。

更生不可能と思われるような受刑者ですが、移送先の府中刑務所における所長との出会いが、彼を変えていきます。所長は、逃走防止のため常にはめられていた彼の重い手錠を外し、他の囚人と同様に扱うこととしたのです。独居房に花を生け、慰問行事に参加させ、炊場での重要な作業に従事させ…そのうちに彼は模範囚となり、遂には仮出獄を果たします。

人が変わろうとする時には、何がしかのきっかけがあり、彼が脱獄王から模範囚へと変わっていったのも、府中刑務所長の「賭け」とも言えるような対応があったからでした。所長の温かく信頼に満ちた態度が、冷たく固まった彼の心を少しずつ溶かしていったのだと思います。

ちなみに、私が新任の保護観察官の時に御指導いただいた杉山栄子保護観察官は、実在の彼の最期を看取

った方でした。彼は杉山さんに、自分には3人の恩人がいて、それは府中刑務所の所長さん、家族に見放された自分を引き受けてくれた更生保護会の会長さん、そして、人生の最期に心を通わせてくれた杉山さんです、と言ったそうです。

#### 2 山本周五郎『さぶ』(新潮文庫)

主人公の栄二とさぶの友情を軸に展開される江戸時代の物語です。腕の良い職人であった栄二は、無実の罪に問われる中で、復讐心にとらわれ、岡っ引きに反抗し、遂には無宿人として江戸石川島の人足寄場に送られてしまいます。人足寄場は、寛政2年に、老中・松平定信が、火付盗賊改役である長谷川平蔵(有名な鬼平犯科帳のモデル)の進言によって設置したと言われており、無宿人や引き取り手のいない刑罰者などを収容し、職業を授けて更生を図ることを目的とした施設です。そこには、犯罪をした者に職業訓練や生活指導を行い、お金を貯めさせて自立させるといった更生保護の思想が込められています。

人足寄場に収容されてからも復讐に燃える栄二でしたが、世間からはじき出された様々な人と出会い、暮らしを共にするうちに、「人間てやつはおかしなものだ」と思うようになります。そして、共に生きる人たちの優しさにふれる中で、我が身のことしか考えず、孤立を深めていた自分に気がきます。身も心も傷だらけになってしまったけれど、人足寄場での経験が栄二を成長させ、復讐心が人間への愛おしさへと入れ替わっていきます。

ここには、新たな人との出会いや体験が、その人の「ものの見方」を変えていくのだということが丹念に描かれています。そして、それは実際に過ちに陥った人が、ものの見方を柔らかくし、愛情の機微を知り、更生していくプロセスと重なるものだと思うのです。

講話では、その他に、カルロ・コッローディ(大岡玲訳)の『ピノッキオの冒険』(光文社古典新訳文庫)、吉村昭の『見えない橋』(文春文庫)、サンテグジュペリ(池澤夏樹訳)の『星の王子さま』(集英社文庫)を取り上げさせていただきました。研修員の皆様には御清聴いただきまして、誠にありがとうございました。



# 都県更生保護女性連盟から

## —地区会で力を入れている活動の紹介—

### 地区会長の役割を考える

茨城県更生保護女性連盟

平成30年12月10日～11日、大洗パークホテルにおいて「平成30年度理事統一研修会」が実施されました。

近年、地区会長も短期間で交代する地区会が増えているように思います。会員歴の浅い会員が会長に選任され、引き継ぎも十分でないため、「会運営に戸惑っている」との声をうけ、地区会長の役割について改めて研修会を行うこととしました。

当連盟では、平成24年から2年間をかけ、当時の水戸保護観察所岡坂吉朗所長のご指導のもと、地区会長である理事の方々の理事統一研修会で、会長の役割について意見を出し合い、出された膨大な意見を1、会長の役割 2、会員育成の役割 3、地区会の役割 4、対外的役割 5、組織運営の役割の5つに分類し、「会長の手引き」としてまとめました。

今回の研修では、「会長の手引き」を参考にし、特に1、会長の役割 2、会員育成 3、会の運営費・活動費をテーマとして研修しました。事前に「会長の手引き」を読んで話し合いたいことを考えてきていただきました。

当日は、6グループに分かれてワークショップを行いました。グループにリーダーはおかず、平成30年度日更女中央研修に参加した研修員2人が進行役を務めました。

3つのテーマについて主なものを挙げてみますと、

#### ○ワークショップ1(会長の役割について)

- ・会長の役割は能力より、努力と気配り。
- ・「会長の手引き」は、迷った時の道しるべ。

#### ○ワークショップ2(会員育成の役割について)

- ・各種研修には新会員を含め、偏りなく参加してもらい、報告会で他の会員へ周知させることが大切である。
- ・会員の特技・特徴を生かした役割分担(一人一役)が大切であり、会員としての意識を高める。
- ・会員への声かけ、コミュニケーションが大切。

#### ○ワークショップ3(会の運営・活動資金について)

- ・活動が活発になるほど、資金不足が深刻。
- ・行政からの助成金が減少し、賛助会、社明パネルの還元金が頼り。バザー、物品販売もしている。
- ・愛の募金の地域への還元金は、地区会として・施設支援・地域の犯罪予防・子育て支援の地域活動をすすめる上でなくてはならないもので、愛の募金にご協力いただけるような信頼される更女でありたい。

など、楽しく交流しながら、会長としての責任を確認し合うことが出来ました。



(文責 鈴木みち子)

### これからの鹿沼市更生保護女性会

栃木県更生保護女性連盟

平成29年度、鹿沼市更生保護女性会は発足から25年の節目となりました。おりしも平成29年に日本更生保護女性連盟から「地域との連携・協働活動推進地区」に指定され、「地域貢献者フォーラム in かぬま」を9月26日(水)、鹿沼市民情報センターにて開催いたしました。鹿沼保護区保護司会、鹿沼保護区協力事業主会、鹿沼市民生委員児童委員協議会、日光地区更生保護女性会、今市地区更生保護女性会、藤原・栗山地区更生保護女性会、鹿沼市更生保護女性会及び、来賓等を含め、104名の参加となりました。

基調講演は、「地域課題を解決に向けて」というテーマで、児童養護施設ネバーランドの施設長、宇賀神慶子先生の講話を拝聴致しました。

次に「地域貢献者の協働について」をテーマに、かぬま市民活動広場ふらっと代表、平野克己氏をコーディネーターに、パネラーは、鹿沼保護区保護司会会長池田俊雄氏、鹿沼保護区協力事業主会前会長青柳卓氏、鹿沼市民生委員児童委員協議会会長大塚美津子氏、鹿沼市更生保護女性会会長板橋和子氏で、活動の発表やこれからの連携等の話し合いをしました。フォーラム後、平成30年度、保護司会と協力事業主会の協賛を頂き、社会を明るくする運動のパネルを作成し、各コミセン等に配布しました。連携のはじめの一歩となりました。

また、今年度、栃木県更生保護女性連盟、県央第4ブロック研修会の当番地区となり、9月27日(木)、情報センターで、来賓を含め74名の参加で開催されました。「人権感覚を高めてコミュニケーション力をアップしましょう」をテーマに、上都賀教育事務所、ふれあい学習課副主幹、福田勝彦先生の講話を拝聴しました。午後は10班にわかれ、グループワークをしました。アイスブレイキングを重視して、楽しく研修をしました。

これからも、一隅を照らす、更女の心を大切に活動をし、ひたむきにしていきたいと改めて思いました。



(鹿沼地区 板橋 和子)



## 群馬ダルクに寄り添って

群馬県更生保護女性連盟

高崎地区更生保護女性会は、「鶴舞う形の群馬県」の南西部に位置し、埼玉県に隣接する交通の拠点であり、「音楽のある街・高崎」を誇る中核都市です。平成18年の合併で現在の人口は37万4260人です。更女会員は、756名です。

薬物乱用防止啓発活動の一環として、平成25年度から群馬ダルクと交流会を行っています。

高崎市日高町にある群馬ダルク（NPO 法人）は、薬物依存症からの回復、社会復帰を目指す施設で、現在は20名前後の方が入寮し、個人に応じたプログラムに沿って生活しています。

地区更女会の活動は、3班に編成して行い、各班が年に一回ダルクの人たちと一緒にカレーを作ります。参加者は40名。材料は会員が用意しますが、作るのはダルクの方々です。包丁捌きも鮮やかで手早いです。たとえば、11月のメニューは、豚のひき肉のカレー・サラダ・コンソメスープ・果物・お茶・差し入れの漬物です。一緒に食べ、それぞれの思いを語り、お互いを理解し合い、よい雰囲気を楽しみひと時をすごすことができます。笑いあり、時に涙することもありますが、会の終わりに季節の歌をうたい「今日日はさよなら」を合唱し、会員からの日用品をお土産として渡し、再会を約束して閉会となります。

平成28年度からは、高崎保護区保護司会の協力参加を得られて、より一層の理解も深まり充実した活動となりました。平成30年度は6月と11月に行い、次回2月には第20回目を迎えます。6年間の実践活動を継続することができたのは、保護司会をはじめ活動拠点の地域の皆様のお陰です。また、更女会員の物心両面の温かい理解と、ダルクの方々の自分の過去を反省し、何度も繰り返しながらこの場で更生しようという決意と努力が感じられたからです。

現在、再犯防止等の推進に関する法律ができ、再犯防止対策として依存回復支援が益々必要です。このことを地域社会で理解していただけるよう、活動を進めて参ります。



(高崎地区 田島 弘子)

## 瀬戸山賞を受賞して

さいたま地方検察庁における  
再犯防止等プログラムへの協力

埼玉県更生保護女性連盟

平成30年9月、埼玉県更生保護女性連盟は、瀬戸山賞を受賞することが出来ました。

受賞の端緒となりましたのは、さいたま地方検察庁との連携活動・「再犯防止等プログラム」だと思います。その証拠に、いただいた表彰状の文言にも「再犯防止等プログラム」のことが記されています。

その「プログラム」成立に向けての動きと、取り組みの一端について触れてみたいと思います。

検察庁からお話をいただきましたのは平成26年のことでした。

連携先に「埼玉県更生保護女性連盟」を選んでくださったということ自体、県連盟の昨今の活動を評価してくださった証しと解釈し、私たちは何よりも嬉しく感じました。

その後、平成27年6月のプログラムの協力開始に至るまでの1年間、検察庁、さいたま保護観察所、県更女連盟の3者でいろいろ検討がなされました。当連盟の大役の任を担ったのは、当時の会長・金澤千津子会長でした。その間、心痛む言葉等も飛び交い、決して平坦な道ばかりではありませんでした。

このプログラムは、高齢女性の万引き再犯防止に向けての取り組みです。万引きを犯してしまう高齢者の中には一人暮らしであったり、地域から孤立している者が多く、それらの解消に向け相談支援を行うものです。

支援期間は月1回のペースで3ヵ月～4ヵ月間、遵守事項に沿いながら、対象者の居住する地区の会長を中心に複数人で往訪し、支援終了後には、検察庁に報告書を提出します。

検察庁では、受理した報告書を参考に最終処分を決定すると伺っております。

依頼を受けた対象者の特徴としては、皆話し好きで積極的に話しかけてくる、また、地域との繋がりも少なく、話し相手も少ない等の共通点が伺え、寂しさが根底にあると感じます。

同じ地域に住む仲間として、人の温もりを感じられるような働きかけが出来るよう、更女会として、しっかりと活動していきたいと思っています。



(文責 本橋 恵子)



## 千葉県更生保護女性連盟から

～地区会は今…そしてこれから～

千葉県更生保護女性連盟

千葉県更生保護女性連盟では、39地区が4つのブロックに分かれて5年に1度実施してきた研修会を、今年度から毎年行うことになりました。

地域との連携・協働活動を推進するために、「ほっとけない精神で、地域に根差した活動をどのように進めていくか」を課題とした研修会です。日程や内容、具体的な運営などについては、各ブロックに任せられました。

私たち第4ブロック（9地区）は、各地区会長で実行委員会を組織し、計画の検討を重ねました。

10月17日、栄町役場を会場に、ご来賓・保護司・県連関係者・各地区会員（80名）の計97名が参加して、ブロック研修会を開催しました。

午前中は、「再犯防止に対する更女の関わり方」と題して、千葉保護観察所原沢和茂所長のご講演を聴きました。再犯防止の重要性と、更女として多くの国民に「更生保護の心を広める」活動（広報・啓発活動、支援活動、他団体との連携など）を地道に行ってほしいというお話でした。

午後からは4つのグループに分かれ、「社会を明るくするために、更女として私たちにできるおせっかいとは」、「会員を増やし、組織を強化するための具体的方策は」という2つのテーマについて話し合いました。ファシリテーターを中心にアドバイザーも交えて、それぞれの地区で取り組んでいる活動の内容や成果・課題について、活発な意見交換が行われました。

最後に、田中麻里子保護観察官から「地区でいろいろな活動をしていることがよく分かった。新しい活動とともに、今やっている活動をきちんと見直していくことも大切である」と講評をいただきました。

開催まではとても大変でしたが、この研修を通して、実行委員や参加会員同士、協力して下さった他団体の皆様との繋がりができたことは、地域との連携・協働活動推進の価値ある一歩であったと考えます。この研修会をもとに、各地区の活動がより充実したものになるよう頑張ります。



(栄地区 田邊みさを)

## 活動報告と新しい時代への展望

東京都更生保護女性連盟

昭和42年8月、会員数50名で港区更生保護婦人会として発足しました。構成員は、女性保護司・男性保護司の奥様を中心に、民生児童委員・母の会会員、また、会の活動に賛同し参加協力をして下さる方々です。

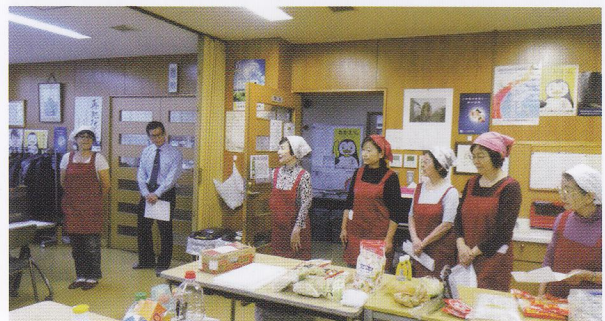
会員数が増えることで活動の幅も広がり、現在は社明運動・区民まつりでのバザーや更生保護の啓発活動・パレード・各種施設の訪問と研修・男の料理教室・給食奉仕・子育て支援活動・男女平等参画センターリーブラで行われる事業に参加するなど、全体で行う活動と各分区で担当する事業とで1年間を通じて数多くの事業の主催・共催・参加協力という形で活動をしています。

とりわけ男の料理教室は、更生保護施設で暮らす寮生の自立支援が目的で、手軽にでき充実味の味わえるメニューを寮生と共に調理し、テーブルを囲み会食するという時間を過ごします。寮生にとっては、一般社会の人たちと過ごす社会復帰に繋がる大切な時間であり大きな意味を持つと感じています。

一方、子育て支援の活動の一環として児童館や中高生プラザの催し物に参加協力していますが、子育て世代との関わりは、私達にとっても楽しくやりのある活動です。青少年を取り巻く環境は変わりつつありますが、次代を見据え活動したいと考えています。

平成29年に結成50周年を迎えた港区更生保護女性会の活動の歴史に触れるたびに、これまで築いて下さった諸先輩方のご指導とご協力に感謝しております。今年は「平成」から新しい元号となり、新しい時代の幕開けとなります。引き継ぐ私達は諸先輩方の築いて下さった活動を踏まえ、時代に合った活動の進化を遂げる為、自己研鑽に励むことが必要不可欠となります。

「綱領」に掲げられる更生保護や青少年の健全育成を基盤に、より充実した活動を通し社会の皆様へ深い理解と賛同を得られるよう努力いたします。更なる飛躍を目指し会員が一丸となって取り組んでまいります。



(港区 塩谷 征子)